



一般社団法人名古屋工業会会誌

こきそ

2020 9-10月号

【新型コロナウイルス感染症に伴う
学生援助に対するご支援について】

【交流コーナー】

環境保全技術研究に携わって

【新聞記事コーナー】

中日新聞

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

No.497

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0061 名古屋市昭和区御器所町字木市29番
国立大学法人名古屋工業大学 校友会館内

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>



名古屋工業会機関紙「ごきそ」500号企画について

名古屋工業会機関紙「ごきそ」につきましては、名古屋工業会が「社団法人」として認可後、昭和42年6月に第1号を「会誌」として発刊し、昭和45年に「ごきそ」と改題しました。この「ごきそ」は、52年間にわたり発行を続け、来年3、4月号をもって第1号から数えて500号となります。

おりしも、名古屋工業会館の解体工事が進行しており、年度末には、工事が完了し新たな活用が開始される運びです。

このため、同窓会館（名古屋工業会館）建築に至る経緯と関係の会員、役員の思い、同会館における会議・行事にまつわる話題、また、関連して創立から105年にわたる工業会への思いなど、特集を組みたいと存じます。

次号において、詳しい企画と原稿の募集を行いますので、ぜひ、応募ください。



工業会館

表紙写真説明

「秋の訪れ」

撮影者 工業会事務局

2020年8月

会員各位

一般社団法人名古屋工業会

理事長 加川純一

新型コロナウイルス感染症に伴う学生援助に対するご支援について（お礼）

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

名古屋工業会では、母校、名古屋工業大学が、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた学生の支援等のための募金活動を開始したことに呼応し、5月20日から募金活動を行いました。

その結果、7月末までに、名古屋工業会の本部・支部から3,530,000円が、会員と会員以外の卒業生から3,581,000円が寄附されました。

母校名古屋工業大学では、新型コロナウイルス感染症で経済的に影響を受けた下宿生、約190名に給付金5万円を支給しました。

ほんとうにありがとうございました。

さて、母校では、残念ながら新型コロナウイルスに感染した学生が出てしまい、再び、実験・実習・演習を含め、対面授業はすべて禁止になりました。後期の授業もオンラインで実施することが決定されました。現在、さらに感染が拡大することを防ぎながら学習環境の整備、授業方法の改善を行い、教育研究の断絶が起こることがないように努めておられます。

名古屋工業会といたしましても、引き続き母校と母校の学生の支援を行うとともに、我々自身についても、警戒を緩めることなく活動をしていきたいと存じます。

会員の皆様におかれましては、ご自愛なされ健やかに過ごされることをお祈りいたします。

紙面上ではありますが、御礼申し上げます。

交流コーナー

環境保全技術研究に携わって

男成 妥夫 (G48)

1. はじめに

当方は、かつて公設の研究機関(三重県の工業研究所及び保健環境研究所)において主として環境保全技術(公害対策基本法の制定で取組の必要が生じた。)に係る試験研究業務に従事し、時々のニーズに対応する中で図らずも幅広い領域に及ぶ種々の研究に取り組む結果と成り、その際に、様々な体験、知見を得る機会がありましたので、ここにその一端を紹介させて頂きます。及ばずながら、こうした研究に興味をお持ちの方の何らかの参考になれば幸甚です。なお、参考のため関連する発表論文等の一部を各研究概要の文末に記載致しました。

2. 手掛けた研究事例の紹介

2.1 オゾン酸化反応の応用に関する研究

最初に手掛けた研究は、オゾンを用いる水処理に関するもので、関連するテーマで得られた国費補助事業の結果報告に必要な実験が新人の当方に回された事によります。当時はオゾン関連の基礎研究は国内ではほとんど行われておらず、わずかに存在するアメリカ、カナダ、ロシア等の文献を参考に、染色工業排水処理をターゲットとし、このオゾンを用いる極めて難解な気液接触反応によりアゾ化合物を除去する実験に取り組みました。これに関連しては後に多くの論文を発表し、それが恩師中川元吉先生の目にとまり、まとめる様に促され博士論文となりました。(日化,1978, 1570; Bull.Chem.Soc. Jpn., 58, 2526 (1985); 日化, 1989, 1017; 染色工業, 40, 324 (1992))

また、オゾン、オゾン-紫外線、オゾン-過酸化水素-紫外線等の方法(Advanced Oxidation Process)での酸化活性種による反応を応用し、産業排水、下水、廃棄物処分場浸出水等に溶存するアゾ色素、有機塩素系溶剤類、

農薬類、可塑剤類、エストロゲン等々の酸化分解による無害化に関する研究を行い、それらの浄化能を明らかにし、内分泌攪乱作用が指摘されている物質(環境ホルモン)を含む有害環境汚染物質の効果的な除去を可能



開発したプラント

とするベンチスケールの水処理装置を設計し試作しました。こうした研究では水中オゾンの迅速な定量が必要なため、フローインジェクション法によるその定量法を開発しました。(Prog. in Nuclear Energy, 29 (Suppl.), 183 (1995); 洗浄設計, 1995 (Spring), 15; 分化, 43, 635 (1994))

2.2 有機性汚濁質の生物処理と水質汚濁指標に関する研究

活性汚泥法(ゾーグレアを優占種とする好気性微生物のフローラを用いる生物処理法)による高塩濃度排水中の有機性汚濁質除去に関する研究及びそれに関連して紫外線吸収スペクトル(UV)やゲル濾過クロマトグラフ(GFC)の水質汚濁指標への応用に関する研究を行い、水産加工排水の様な高塩濃度下でも活性汚泥処理が有効な事と、UVやGFCが水質汚濁指標として有用な事を明らかに致しました。(水処理技術, 22, 1083 (1981); 水処理技術, 24, 303 (1983))

2.3 キレートポリマーの開発に関する研究

5員環のヘテロ環状化合物をペンダントしたポリビニルフェノールをベースとする新規なキレートポリマーを合成し、その高い重金属イオン吸着能および重金属イオンとの錯生成に

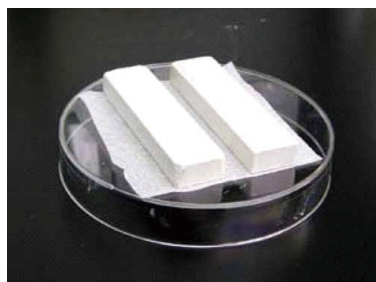
特異な呈色反応(錯体の色相が、錯生成する金属イオンにより異なり赤紫や青紫等と成る)を伴うことを見出し、金属表面処理工業排水中の重金属イオン除去回収や簡易分析に有用な事を明らかにしました。(J. Appl. Polym. Sci., 31, 1664 (1986); Anal. Sci. 7, 463 (1991))

2.4 廃棄物からの吸着剤の製造に関する研究

強化プラスチック(FRP)、コーヒー抽出残渣等を炭化し、活性炭様の炭化物を調製したり、抵抗製造工程のセラミック加工残渣を用いゼオライト(A型)を水熱合成して、吸着剤として用いる方法を検討致しました。その結果、有機物の外にリン酸イオンをも吸着可能な思わぬ性能の炭化物やアンモニウムイオン吸着に有用なゼオライトが得られる等の事を明らかに致しました。(強化プラスチック, 49, 318 (2003); 燃料及燃焼, 65, 498 (1998); 特開2000-254489)

亜臨界水(180℃、10気圧)を用いてゴミ焼却灰を処理し、ダイオキシン類の無害化と重金属類の除去及び安定化を行うと共に多孔質体(トバモライトの様なケイ酸カルシウム系鉱物)の水熱合成を同時に達成する方法を開発し、得られた多孔質体が陽イオン交換能を有し吸着剤として有用な事を明らかにしました。

また、同様の方法をアコヤ貝殻の有効利用法の開発に応用し、シックハウス症候群原因物質や重金属イオン類、オルトリン酸イオン等に対する吸着能を有し、その物単独で任意の形状に成型可能な多孔質体を開発しました。ケイ酸カルシウム系鉱物の水熱合成に関しては、母校には光田先生以来の我が国をリードする研究集積が有り、当方もその流れをくむ引地先生に御指導頂きました。(用水と廃水, 43, 955 (2001); 特開2000-107726)



アコヤ貝殻からの多孔質体成型体

2.5 未利用バイオマスのメタンガス化に関する研究

食品工業残さや稲ワラ、海藻、アルコール発酵残さ、廃油BDF(植物由来のジゼルエンジン燃料)化副生グリセリン等の未利用バイオマス資源の高温メタン発酵による高速のエネルギー物質化に関する研究を行いました。その結果、バイオマスの種類による発酵特性の相違と発酵阻害防止に係る知見を得て、その成果に基づき企業との共同研究でメタン発酵プラントの性能評価を行いました。(資源環境対策, 42(No. 14), 85 (2007))



メタン発酵実験装置



メタン発酵プラント

2.6 光触媒の応用技術に関する研究

光触媒コーティングガラスビーズを充てんした反応器を用い、紫外線の外、オゾンや過酸化水素を併用する方法による水中の難分解性有害化学物質の除去を検討しました。また、アコヤ貝殻やゴミ焼却灰を用いて水熱合成したケイ酸カルシウム系鉱物(多孔質体)の成型体に可視光応答型光触媒をゾルゲル法でコーティングし、紫外線発光型LEDやブラックライト等により光を照射する方法で、持続的空気浄化能を有するコンパクトかつ省エネルギータイプの空気浄化モジュールを開発しました。(Proc. of Inter. Conf. on Ozone in Glo. Wat. Sani., III-3-1 (2002), 資源環境対策, 46 (No. 3), 89 (2010))

2.7 マイクロバブル及び超音波の応用に関する研究

オゾンマイクロバブルと超音波の併用法により、金属加工部品の精密洗浄を効果的かつ低環境負荷で行う方法を検討し、精密加工部品のパターン倒れの抑制を可能とするその高い洗浄効果を検証し、その結果に基づき企業と共同して

洗浄装置を試作しその洗浄性能を確認致しました。(分離技術, 40, 156 (2010))

また、企業との共同研究で、水産加工工程排水処理やし尿の土壌浄化処理へのオゾンや空気のマイクロバブルの応用技術開発に取り組み、脱色、脱臭、殺菌(オゾンはO-157等の大腸菌やレジオネラ等の病原菌類の殺菌及びポリオ等のウイルス類の不活性化に有効である。)等の水質項目の改善効果や土壌浄化槽の閉塞防止効果が高い事が確認されました。(用水と廃水, 55, 153 (2013))



オゾンマイクロバブル実験

3. 研究以外の取り組み事例紹介

企業の生産現場に出向いての技術指導では、全業種を対象に環境保全技術全般(排水・排ガス処理、騒音防止、廃棄物処理等、延べ数百社)について取り組みました。指導に基づき建設された水処理プラント(活性汚泥法、処理能力400トン/日)を例示します。



水処理プラント

また、(財)国際環境技術移転研究センター等の要請により諸外国(フィリピン、インドネシア、エジプト、ブラジル等)の政府関係機関の研究者や担当者、大学の研究者、企業の技術者外を対象に環境保全技術の講義を行ったり、大学の要請により非常勤講師(名工大「環境工学」、三重県立看護大「化学」)を務めたり、研究者や学生の研修(インドネシアのスリウィジャヤ大学講師、サンパウロ州立大学院生、京都大学院生外)を受け入れたりして、専門知識の普及と人材育成の推進にも一定の取組を行いました。

当方の保有する技術シーズ(オゾンの外、オゾン-紫外線、オゾン-過酸化水素、オゾン-超音波、過酸化水素-紫外線、光触媒-紫外線、マイクロバブル-超音波等の方法で発生する酸化活性種を用いる高度酸化の応用技術)を核とする研究会を立ち上げ、オゾナイザーメーカー外延べ17会員と共に研究会活動を行い、惜しむ声も頂きましたが創設10年の節目と成る2005年に閉会しました。

思わぬ出来事としては、三重県のRDF(家庭ごみを粉碎圧縮成型して得られる固形燃料)発電施設において、RDF貯蔵庫の発火爆発事故が発生し、その原因究明に当たりました。その事故調査委員会のメンバーは、県側の委員として当方と他の名工大卒業生1名の2名および大学と消防研究所の関係者等から構成され、連日の報道で衆目を集める中原因究明に当たり、RDFの吸湿に起因するものとの推察に至り、改めて燃料管理の重要性を認識させられる出来事でした。

4. おわりに

当方が配属された職場は、明治24年に地域産業の製品開発や生産技術等に係る様々な取組への支援を目的に三重県工業試験場(当初化学他6部門)として設置され歴史は古かったものの当時は化学分析や強度試験等の業務が主で、理化学機器や予算が少なく、アプリケーションテクノロジーと表現され幅広い専門領域に及ぶ知識、経験、分析力等の総合力が試される環境保全技術に取り組むには、いかにも心もとない状況下での研究の開始でした。今思えばやや無謀な気もしますが、大学の先輩外の外部機関の方々に協力を頂き理化学機器を利用する等創意工夫を行い、無我夢中でニーズ調査(化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律外の法規制動向や地域産業の生産現場動向調査)や科学技術文献速報及び種々の専門雑誌等での文献調査を行い、その結果に基づきまずは遂行可能な研究から手がけ、その結果は必ず学会発表や専門雑誌への投稿を行うとの精神の元、内外の様々な学会に出かけ研究発表や調査をして、

種々の専門雑誌に論文投稿を致しました。こうした取り組みを行う内に、次第に通産省、民間の財団、科学技術振興機構、企業等からの研究補助金、委託・共同研究費等の外部研究資金が得られる様に成り、研究の必要に応じて元素分析装置、自記分光光度計、分子量測定装置、ガスクロマトグラフィー質量分析装置、高速液体クロマトグラフ、高周波プラズマ質量分析装置、蛍光X線分析装置等々を次々と入手し、また、当初は重回帰分析やパターン認識の計算を電卓で行い、グラフも用紙にロットリングとタイプで作成しスライドや論文の原稿とする等の状況であったものが、コンピューターによるデータ解析や発表資料作成が飛躍的に進歩する等の事から、効率的な研究が可能と成りました。

内外の多くの学会に参加しましたが、中でも印象深かったのは、以下の通りです。

1994年のリール(仏)での国際オゾン協会(IOA)主催の国際会議の際には、ツールーズの大学(当方が研修を指導したインドネシアの大学講師の母校)に立ち寄りオゾンによるパルプ漂白技術(当時パルプ漂白工程の脱塩素化が世界的に喫緊の課題と成っていた)外に関する視察と意見交換を行い、パリではマルヌ川の浄水場でのオゾン利用を調査し、エッフェル塔上部のホールで催されたバンケットでは百万ドルの夜景を楽しみました。また会議の後で、ロンドンのテムズ川の浄水場でオゾン利用状況調査を行い、近くのウエントワースGC(クラブハウスの玄関ホールには、世界マッチプレーを制した青木氏の名前が刻まれた額が飾られています。余談ですが、その頃の小生の趣味はテニスで、その後50歳を目前にして同窓生の勧めでゴルフを始め、今では楽しみの一つと成りました。)に立ち寄り昼食を取った事、続いてスコットランドに行きグラスゴーの下水処理場を調査し、円形沈殿槽等下水処理の原型を見る思いをした事等も心に残る出来事でした。

1995年ホノルルでの環太平洋化学会義で環境ホルモンであるフタル酸エステル類のオゾン酸化反応に関する口頭発表を行ったところ、当時フロン類や有機塩素系溶剤類が成層圏に達する

とオゾン層の破壊を引き起こす問題(この年にそのメカニズムを解明したローランドとモリナがノーベル化学賞を受賞)に関心が高く関連の発表が有った事からオゾン酸化反応への注目が高まり、また演題が話題の環境ホルモン関連であった事も相まって当方の発表にも多くの聴衆が集まりました。

2002年にアムステルダムで開催された Inter. Conf. on Ozone in Global Water Sanitationで、オゾン、光触媒、紫外線を併用する高度酸化処理によるエストロゲン類や農薬類等の環境ホルモンの無害化に係る口頭発表を行ったところ、ライン川終末に位置し、こうした物質による水源汚染リスクの高い国らしく、この演題への高い関心が寄せられ、演台に上ると聴衆が増え多くの立ち見が生じました。



中央：国際オゾン協会(IOA)会長、
右：IOA欧州グループ会長、左：筆者

最後に研究開発に取り組まれている皆様へ、自分の希望する研究内容とその実験環境が得られ難く御苦労される事も有ろうかと思われます。当方もそうでしたが、そうした時は「人の行く裏に道あり花の山」、「牛尾たるより鶏頭たれ」等を座右の銘とし、専門書を読み、こつこつと文献調査をしたことが、後の研究に大いに役立ちました。釈迦に説法とは思われますが、皆様もそうした時には、焦らず、腐らず、着実に努力して下さい。また、名工大の卒業生には素晴らしい仕事を成し遂げられている方が沢山おられます、当方もこうした方々に多大の助力を頂きました。母校や同窓生との縁を大切にして下さい。皆様のご発展をお祈り致します。

新聞記事コーナー

中日新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2020/6/9	朝	21	平田晃正	電気電子工学専攻	夏マスク意外と体温上昇わずか ただ…脱水症状や酸欠には注意
2020/6/18	朝	29	平田晃正	電気電子工学専攻	人口密度高いほど感染者増 証明
2020/6/18	朝	7	二之夕裕美	卒業生(M59)	「提案力」で業界変化に対応 東海理化・二之夕新社長
2020/6/22	朝	10	名古屋工業大学	—	街角ニュース ベトナム人留学生に支援
2020/6/27	朝	18	NAGOYA SHACHIHOKO	—	街角ニュース ◇港区が学生団体に感謝状 名工大などの学生グループ「NAGOYA SHACHIHOKO」が フェースシールドを送る
2020/7/21	朝	1	名古屋工業大学	—	有望な技術見極め企業に事業提案 名工大に新会社、共同 研究橋渡し
2020/7/23	朝	32	名古屋工業大学	—	大学 秋もオンライン授業 名工大や南山大
2020/7/29	朝	25	名古屋工業大学	—	学内の技術や知財を共同研究へ 名工大 新会社の設立発表
2020/8/1	夕	1	平田晃正	電気電子工学専攻	熱中症搬送数を高精度予測
2020/8/3	夕	5	若山 滋	名誉教授	新刊ピックアップ 若山滋「寡黙なる饒舌 建築が語る東京秘史」
2020/8/7	福井版 朝	16	名古屋工業大学	—	国立大の実就職率ランク 福井大が13年連続トップ 2位 名工大



名古屋工業会のHP 会員限定ページについて

会員限定ページをご覧いただく際にはパスワード入力が必要となります。

【パスワード:gokiso5298】

『M二八会』クラス会の顛末

わが機械工学科第1期生のクラス会是一同が卒寿を迎え、ここにお開きとなりそうである。開催した会合数は28回。現在のIT社会の中で、会友相互の動静・情報の交換は時や場所を選ばずにいつでも出来る。現に新型コロナウイルス禍の最中大いに活用されている。だが技術が進化しても現実そのものにはかなわない。そして過去の懐かしさは歳を重ねるにつれて膨らんでくる。1953（昭和28）年3月15日、卒業式あとの昼どき、当時名古屋工業会から贈られた折詰めと1合の清酒をもって誰が誘うこともなく自然に正門前の芝生に級友37名が車座になって祝杯をあげた。級友全員が会したのはこれが最初で最後である。

第1回の会合は早々に4月連休の頃、鶴舞公園交差点南西角の大樽屋だったとの記憶がある。しかし残された記録は卒業年3年目1955（昭和30）年の写真からである。未だ学生気分が抜けきらず、大いに盛り上がったが担当幹事が誰であったかも定かでない。

筆者は卒業5年目の5月、縁あって本学教員の末席に就くことになり、以来、幹事の一端を担って現在に至っている。

卒業10年となればそれぞれに仕事も板につきまた、我が国の目覚ましい経済成長の環境下では不本意な欠席者も多い時代である。

卒業30年記念の催しは恩師4名のご出席を得て、また級友一同それなりの役職にあって盛大な会合となった。

会合第14回。還暦も過ぎ多くが仕事も最前線から退き、ゆとりがもてる時期である。初めての宿泊会であった。南知多町山海海岸、11州が見渡せると銘打った十一家。床がきしむほどの古い木造2階建て、大広間に寝具を敷詰め童心に返った1泊であった。関東方面はもちろん関西、更には北九州など遠路遙々車を駆って集まったさまは、車の展示場を思わせる風景であった。出席者24名、出席率は63%である。ただし、出席率は以後母数が減少するので増加もある（文末の図を参照）。



1955（昭和30）年（第3回） [21名]



1963（昭和38）年（第8回）卒業10年記念 [16名]



1983（昭和58）年（第13回）卒業30年記念 [18名]

時間に余裕もでき、以後3年ごとに宿泊形式の会合が続くが、次第に宿泊は不都合との申し出がある一方、遠路から日帰りの出来ない参加者をそのまま返すのはいかがかとの声もあり、2次会として名古屋市近郊での宿泊案が浮上する。

クラス会を盛り上げるには母校とのつながりが大切である。第19回は本学校友会館を会場に



1994(平成6)年(第14回) [24名]



2013(平成25)年(第22回)卒業60年記念 [11名]



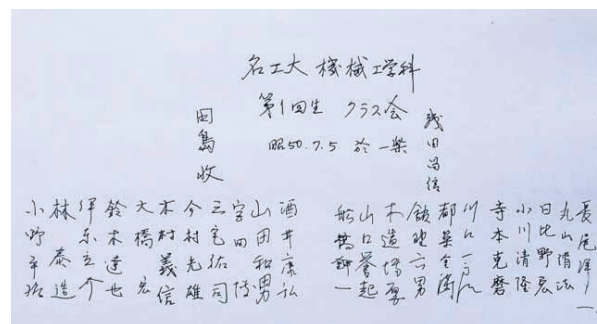
2010(平成22)年(第19回)傘寿記念 [16名]



2019(令和元)年(第28回)卒寿祈念会 [8名]



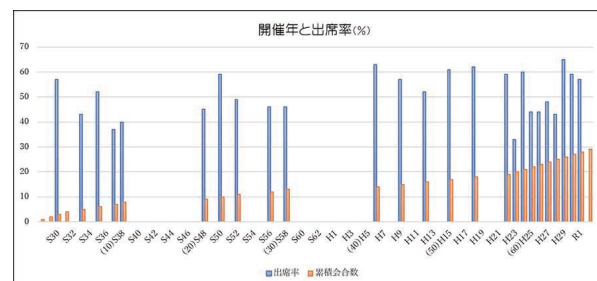
2015(平成28)年(第24回) 2次会



1975(昭和50)年(第10回)恩師と[23名]の署名

して出席率が増加した。第26回でも二次会会場に新装NITech Hallの見学は関心を集めた。二次会は鳥羽まで出かけたこともあったが、トヨタ産業記念館での2次会は往年の機械工作実習を想わせる展示物に懐旧の感一入で、TV塔の登楼も懐かしい。令和元年は会の名称と同じ28回目、これを期に会を閉じようとの声もあったが、人生100年の掛け声もある昨今、第29回も予定したが、コロナ禍ゆえ、第28回でお開きになりそうである。

(M 28 船橋鉦一)



開催年と出席率と累積会合数

第122回 名工大ごきそ会報告

第122回名工大ごきそ会は、令和2年7月1日（水）豊田市松名町に位置するパインズゴルフクラブで14名の参加を得て開催されました。当初は6月1日の予定でしたが、新型コロナウイルス対策のため、1か月延期して開催されたものです。ちなみに、パインズGCは四季桜と和紙で有名な小原の近くにあり、俳人杉田久女の碑も手前にあります。

当日は梅雨の真っ最中のため予報は曇りではあったが、残念ながら断続的に雨が降る中のゴルフとなってしまう、スコアも全体的に低調な結果でした。

この中で野田 昭さんが気を吐きました。グロス111、ネット75で優勝されました。野田さんは手堅くスコアをまとめられ久しぶりの優勝となりました。準優勝者は梶原 俊彦さんで、グロス88、ネット76の成績でした。第三位は最年長者の光行 恵水さんで、グロス90、ネット77の成績でした。BB賞は市橋 洋志さんが獲得されました。特別賞として、ベストグロス賞は梶原さん、ニアピン賞は伊佐治 武さん、市橋さん、岡田 聡さん、野田さんの4名、バー

ディー賞は伊佐治さんが獲得されました。前回はバーディー賞が多発した本コースでしたが、今回は雨で状況が悪化のためか難しかった様でした。プレー後の懇親会では、森川様から前年度の会計報告が行われました。次回は、9月11日（金）加藤様のご紹介で豊田市に位置する藤岡CCでの開催を予定しております。

名工大ごきそ会では、新会員を募集しております。愛知県内の名門ゴルフクラブで年4回開催します。興味のある方はごきそ宛にご連絡ください。

記：山田和男（E47）



2020年度 東京支部総会（書面総会）のご案内

平素は名古屋工業会に格別のご支援とご理解を賜り深く感謝申し上げます。

東京支部では名古屋工業大学の卒業生の絆を深める場として、皆様方のお力添えをもって毎年11月に支部総会を開催しておりますが、今年は新型コロナ禍の状況で書面総会を開催することとなりました。

記

日 時：2020年11月7日（土）～ 2020年11月13日（金）

議 題：審議事項 ①2019年度収支決算（監査報告を含む）

②2020年度収支予算

報告事項 ①2019年度活動報告

方 法：基本的に電子メールで各単科会毎に会員に上記資料を送付し、審議事項及び報告事項について承認・了承の伺いをする。

＜お問合せ：東京支部に会員登録をされている方は、単科会連絡幹事にお問い合わせください。
会員登録をされていない方は下記メールにてお願いいたします＞

* メールアドレス: tokyogokiso@nagoya-kogyokai.sakura.ne.jp
（「氏名」「単科会等」を明記のうえ、お問合せください）



2020年度の

名工大テクノフェア は、

11月2日～12月6日

初めての

オンライン開催 です！

2020年度「名工大テクノフェア」は、
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、オンラインにて開催いたします。
どうぞご理解いただき、皆さま、奮ってご参加くださいませ。



「名工大テクノフェア2020」

公式URL <https://technofair.web.nitech.ac.jp/>

(開催期間11月2日(月)～12月6日(日))

※期間中、上記URLよりいつでもご覧いただけます。

< 名工大テクノフェア2020目玉企画 >

特別講演

第5世代移動通信システム
(5G)の技術を支える大手通信
関連企業3社と名古屋工業大学
による、講演・パネルディスカッション
のライブ配信を予定しております。

研究紹介

名工大の先端技術シーズを
一挙公開！約40人の研究者によ
る紹介動画をご覧いただけます。
また、連携をご希望される企業様には、
そのまま科学技術相談をお申
込みいただけます。

お問い
合わせ先

名古屋工業大学 産学官金連携機構

TEL : 052-735-5627

FAX : 052-735-5542

Mail : nitfair@adm.nitech.ac.jp

2020年度 大阪支部総会のご案内

名古屋工業会大阪支部 支部長 岡崎格郎（A46）

皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が全国的に再拡大し、大阪府でも、重症者数が増加しています。7月に支部総会のご案内をお送りしましたが、参加申し込みは少数にとどまっています。このような状況下で、ご案内通りの内容では開催できないと8月18日の役員会（ウェブ会議）で判断しました。

つきましては、2020年度大阪支部総会のやり方を変更し、下記の通りネットでつながるウェブ会議方式を主にして開催します。会場も中央電気倶楽部を情報発信基地とし、参加者は自宅などでパソコン、スマホなどで参加していただきます。中継基地となる中央電気倶楽部に来ていただくことも可能です。（ただしコロナ対策で3密を避けるので人数が限られます。）

なお、ご講演および懇親会は中止とします。講演会については、次年度以降に持ち越ししていただく旨ご了解をいただいております。

5月以降の総務委員会、幹事会、役員会はウェブ会議で開きました。8月22日の若手・女性部会主催の会員交流会もウェブ会議でしたが、24名（うち半数は今まで参加されなかった方）が参加されました。講演後の質疑応答なども活発で、好評でした。新しい会員交流のやり方としてウェブ会議が広まりそうです。

どうぞ、同窓の方に声をかけていただき、多くの方にご参加いただきますようお願いいたします。

申し込みを9月19日までにお願いします。

記

1. 日 時：2020年10月3日（土）15：00～16：30

ウェブミーティングの接続は14時半から可能にします。

2. ウェブ会議：使用予定ツール Cisco Web Meetings

ウェブ会議参加予定者の方には、事前にWebex ミーティング招待状を送信します。

配信場所：大阪市北区堂島浜2-1-25

「中央電気倶楽部」 513号（西館） 定員：36名

ご来場いただくことも可能です。ただし、定員に限りがありますので、お断りする場合もあります。

Cisco Webex Meeting

<https://www.webex.com/ja/video-conferencing.html>

Webex Meetings Suite システム最小要件

<https://help.webex.com/ja-jp/nki3xrq/Webex-Meetings-Suite-System-Requirements>

Webex ミーティングへの参加

<https://help.webex.com/ja-jp/nrbgeodb/Join-a-Webex-Meeting>

3. スケジュール

- (1) 支部長挨拶、ご来賓挨拶（ネットでのご参加） 30分程度
- (2) 支部総会 議題は次の通り。約1時間程度
 - ①2019年度活動結果・決算報告、2020年度活動計画・予算の審議
 - ②支部長の選任
 - ③その他

4. 参加費用 無料

5. 申し込み方法その他

- (1) 下記の連絡先へメールにて、ご連絡ください。
ウェブ会議か、ご来場かを連絡ください。
- (2) ご来場は、会議室定員に限りがありますので、お断りする場合があります。
- (3) ウェブ会議参加予定者の方に、Webexミーティング招待状を送信します。
- (4) ウェブ会議参加予定者の方には、事前に接続確認（予行演習）のウェブ会議をいたします。
接続確認の予定日は、参加予定者の方へ追ってご連絡いたします。
- (5) 連絡先
ウェブ会議の参加方法などのご質問・提案は岡崎あるいは総務委員長の堀口まで連絡ください。
岡崎 okatopia1317@yahoo.co.jp
堀口 d-horiguchi@kcc.zaq.ne.jp

●申し込み先

単科会名	連絡先	メールアドレス
C E 会	堀口 大輔 (C59)	d-horiguchi@kcc.zaq.ne.jp
光鯨会	中瀬 知幸 (A59)	nakase.tomoyuki@takenaka.co.jp
巴 会	掛田 健二 (M45)	akeyan.ken@gmail.com
電影会	荻原 義也 (E50)	ogihara_yoshiya@nissin.co.jp
双友会	小山 征治 (W42)	qtmx47101@ares.eonet.ne.jp
緑 会	竹村 邦和 (G57)	k-takemura@fujii-mfg.co.jp
名窯会	川島 謙 (Y44)	ken-kawashima@sound.ocn.ne.jp
名晶会	田口 教平 (K44)	taguchi.fkkt@hera.eonet.ne.jp
計測会	坂尾 健司 (F55)	k.sakao.tns@gmail.com
経友会	廣島 清剛 (B50)	art11328@nitech.jp
学生会員	堀口 大輔 (C59)	d-horiguchi@kcc.zaq.ne.jp
単科会連携	西岡 裕 (B50)	y.nishioka.1952@gmail.com
若手・女性部会	坪田 博隆 (M51)	h.tsubota.183@nitech.jp

2020年度 名古屋支部見学研修会中止について

2020年4月書面審議による名古屋支部全幹事会において、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度（2020年度）計画をしておりました見学研修会を中止することになりましたのでご連絡いたします。

名古屋工業会名古屋支部

60名のデンソー等企業出身者が御社の課題を解決します!

技術支援

メカから電気・電子、半導体まで
開発設計、品質、生産技術、生産まで

研修・講演

技術系全25講座—材料、加工、設計、電気・電子、
組込コンピュータ各種要素技術…
品質系全30講座—DRBFM、なぜなぜ分析など
各種未然防止手法
マネジメント系全10講座—経営品質、もしどらリ・ダシツ、
プロジェクト管理…

『開発設計の教科書』(日経BP 2019出版)

WORLDTECH 株式会社 **ワールドテック**

代表取締役 寺倉修(F50)

〒460-0008 名古屋市中区栄5丁目28番12号 名古屋若宮ビル6階
TEL: 052-211-7861 E-mail: solutions@worldtech.co.jp

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・
パンフレット・ポスター・定期刊行物
etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げら
れたノウハウはDTPにおいて、特に
不得意とされる組組みの書籍・表組み
の良物も得意分野です。

印刷

カラー印刷: 2色刷り・1色刷り・特色
刷り、品質・部数・ご予算に応じて提供
いたします。
Macintoshのみならず、ワード・太
郎等の通常オフセット印刷に適さな
いWindowsデータの出力ノウハウも
ありますのでご相談ください。

製本

目次・表紙・体験記・詩歌・俳句・小説・エッセイ・雑誌・絵本等、自分の本を作りたいとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名簿・
クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本で
お困りの学生・法人の方、少ロットより
お手伝いします。

総合印刷の
有限会社 **栄光社**

〒466-0035 名古屋市中区松島町三丁目4番地 2F
TEL: (052) 848-6148
FAX: (052) 848-6518
URL: <http://www2.ocn.ne.jp/~eik/>
E-mail: eikou@theia.ocn.ne.jp

あなたも「ごきそ」の表紙を 飾ってみませんか?

一般社団法人名古屋工業会(名古屋工業
大学全学同窓会)では、会誌「ごきそ」を
幅広い年代の方が交流できるツールとして
活用いただけるよう、同窓生の皆様から随
筆や紀行などの原稿と共に、表紙に掲載す
る写真の投稿をお待ちしております。

お気軽にお問合せください。

E-mail: gokiso@lime.ocn.ne.jp

(名古屋工業会事務局宛)



広報委員会

委員長 森川 民雄(W45)

学内

吉田奈央子

佐藤 篤司(A10)

田川 正人(M56)

酒向 慎司(I11)

杉本 英樹(ZW6)

安井 孝志(D62)

本多 沢雄(ZY6)

小坂井孝生(K49)

米谷 昭彦(F60)

川村 大伸(SS16)

宿輪 宏典(名古屋工業大学 企画広報課)

学外

祖父江貴宏(SC4)

成田 憲人(SU10)

廣瀬 光利(E50)

吉木 満(W56)

高取 奨(D6)

野々山尚志(Y63)

大矢 泰正(K52)

守田 賢一(F47)

入倉 則夫(B47)

一般社団法人名古屋工業会会誌 「ごきそ」に広告を掲載しませんか

「ごきそ」は隔月発行し、会員・廣告
主・関係官庁・各学会・大学・図書館等
に頒布されています。

詳細は名古屋工業会のホームページ

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

でご確認ください。